

Bunkazai Design Contest 2023



—北海道の歴史文化を暮らしのグッズに—

審査結果発表

主催：NPO法人北海道遺産協議会





コンテスト実施概要

応募総数

- 応募作品数

81 作品

- 応募人数

54 名

- 応募者について

日本全国、幅広い世代からの応募あり。（道内は22名）

- 応募者職業等

デザイナー、イラストレーター、学生、一般の方々など

審査基準

- 文化財の魅力を伝えるもの
- 独自性のあるもの
- 商品力

審査員

伊藤 千織（伊藤千織デザイン事務所） / プロダクトデザイン

照井 康穂（株式会社照井康穂建築設計事務所） / 建築

平塚 智恵美（有限会社叶多プランニング） / 商品化、アートマネジメント

野村 ソウ（株式会社スタジオワンダー） / グラフィックデザイン

酒井 秀治（北海道教育大学 岩見沢校） / まちづくり、コミュニティデザイン

矢野 ひろ（NPO法人北海道遺産協議会）

※次ページ以降に掲載の作品は、ご応募いただいた時点での内容となります。表記の相違などにより、グッズ制作の際にデザインが一部変更となる場合があります。



審査講評

伊藤 千織(伊藤千織デザイン事務所)

回数を重ねるごとに、甲乙つけがたい密度の濃い作品が増えてきており、嬉しくも悩ましい審査となりました。「文化財そのもの」の魅力や個性と、その「作者固有」の作風やアイデアが、「バランスよく」無理なく混ざり合っって新しい世界観を醸し出している作品や、持ち歩いて映えそうなシンプルで訴求力(大胆さと緻密さ)のある作品が高評価となりました。今回はモチーフや表現アイデアが、他作品と偶然重なる作品が散見されました。制約のある中での難しい表現ですが、次回も新たなデザインへのチャレンジを期待しています。

野村 ソウ(株式会社スタジオワンダー)

今回の入賞はトートバックをキャンバスとした際に、しっかりと作家性を持ちながらハイクオリティなプロダクトの提案ができていたことが勝因になったと感じています。「暮らしのなかで誰かに話したくなる」というテーマを達成できるのではないかと期待しています。「今も昔も」は記憶や想像を膨らませるような作家性から、北海道遺産のある景色をととても魅力的に伝え、かつそれぞれのイメージを掻き立てる作品で製品化が楽しみです。「Retro cool Ebetsu bricks」の方も構図とディテールに独自性が光り、表裏で北海道遺産の魅力を発信してくれるデザインになっています。今年も入賞作品以外にもアイデアが光る作品が多く、コンペを通して制作者の皆さんにも北海道遺産の魅力を感じていただけたのではないかと思います。入賞・入選の皆様おめでとうございます。

酒井 秀治(北海道教育大学 岩見沢校)

入賞を2つに絞るなんて酷。正直、今回選ばれた作品は、どれもグッズ化したいです。それぞれに核をなす、題材の新鮮さ、余白のある詩的な表現、大胆なモチーフ、真っ直ぐなディテールと構成力などのオリジナリティがあり、売れる、手にとってもらうシーンが浮かんできます。その中で突き抜けていくものの魅力とは何でしょうか。それは積み上げた総合点で決めるものとは違うかもしれません。特にアンドアノさんの入賞作品「今も昔も」には個の強い世界観を感じ勉強させてもらいました。ありがとうございました。

照井 康穂(株式会社照井康穂建築設計事務所)

本年度も全国から沢山の力作を応募いただき有り難うございました。応募いただいた作品の全体のレベルが一段と上がったように思いましたが、その中で突出する作品は見出せなかったように思います。入賞された後藤真千子さんの「Retro cool Ebetsu bricks」はバランスが良く、さらにトートバックに生地表情と合わさってレンガの雰囲気により伝わってくる作品かと考え高く評価しました。入選の太田弥月さんの「模様と見せかけて鮭」は身の柄は絶妙ですがイクラの柄にも一工夫あればと思います。選外ですが今回は北海道遺産全体をモチーフとし抽象化した作品もあり、視点の独自性が際立っていました。今後の作品に期待します。

平塚 智恵美(有限会社叶多プランニング)

審査のポイントは「文化財の魅力を伝える、オリジナリティ、商品力」で配点を行うが、それぞれの立場によってその視点が違う。
3つのポイントを押さえながら、「商品力」を最終的に重視した。
誰が持ちたいのか、どこで販売できるのかをイメージしながら選んでいった。
次世代に残したい「北海道の宝」として、今後も「北海道遺産」の価値を広く知って貰うために、このバッグは持って貰ってこそ役目を果たす。
今後も文化財が暮らしに根付くグッズコンテストになるように期待したい。

矢野 ひろ(NPO法人北海道遺産協議会)

今年も北海道遺産を新しい視点から表現して下さる作品をたくさんご応募いただきました。ありがとうございます。応募作品には、スタンダードに遺産のひとつを描きつつ、デザインの技術や独特のタッチが加えられた作品も多かったのですが、見た人の記憶の中の風景や想像の世界と作品が交わることでオリジナルの北海道遺産のイメージを与えるような作品も多くありました。いずれの表現も想像力が掻き立てられ、「北海道遺産」とは？という興味を生み出してくれる作品ばかりでした。入賞・入選作品は、北海道遺産にまだ出会っていない人々に、「知りたい」や「行ってみたい」を与えてくれるのではないかと期待しています。



入賞



後藤 真千子 『Retro cool Ebetsu bricks』



入賞



後藤 真千子 『Retro cool Ebetsu bricks』



入賞



アンドアノ『今も昔も』



入賞



アンドアノ『今も昔も』



佳作

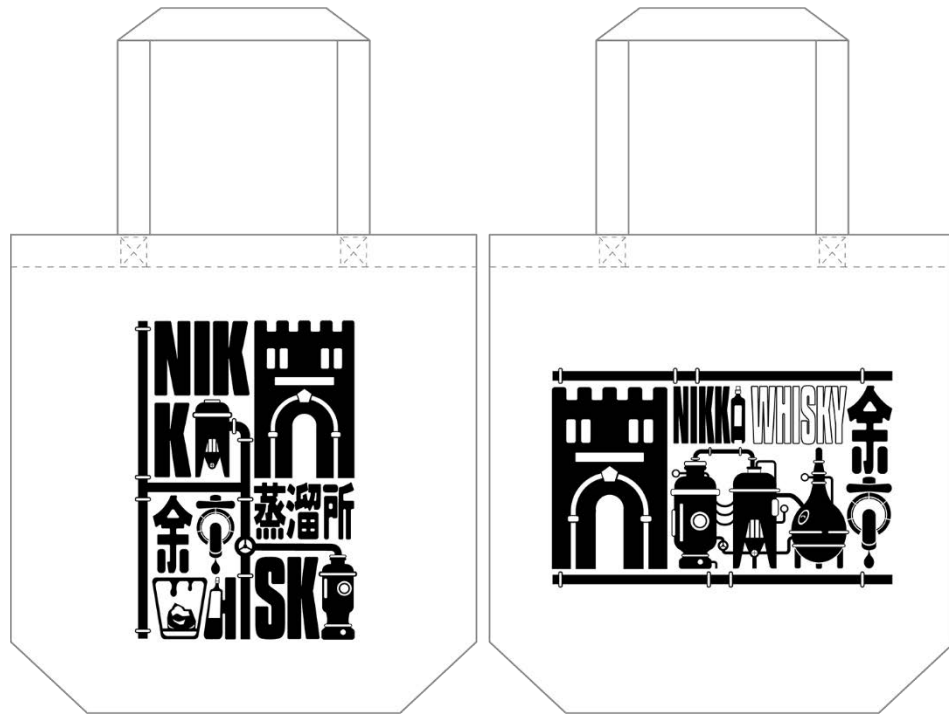


吉田 未玲

『北海道アニマル・スキー倶楽部』



入選

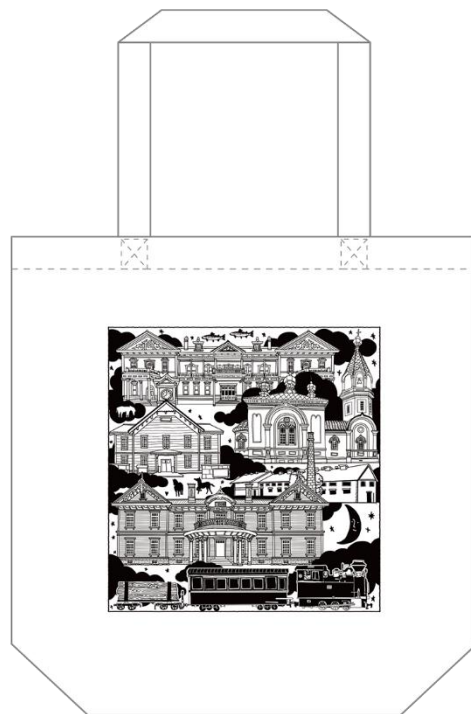
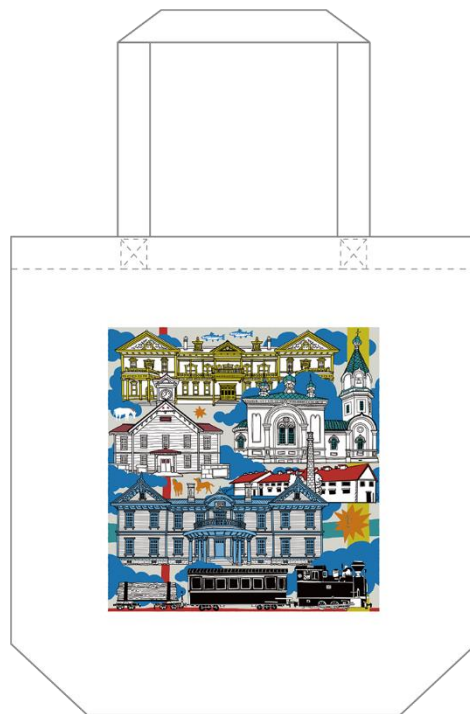
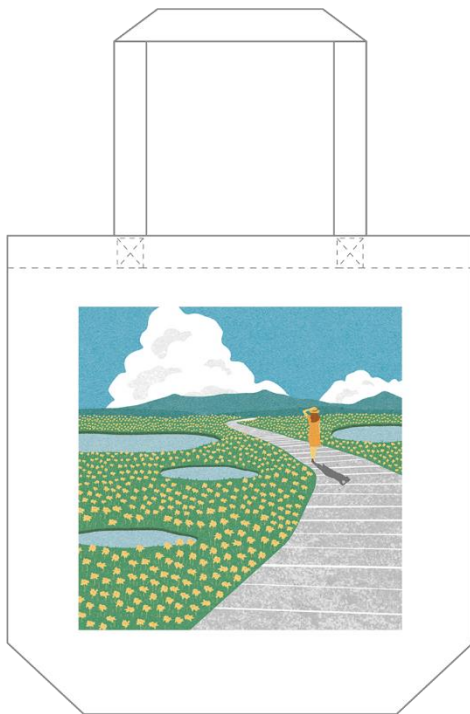
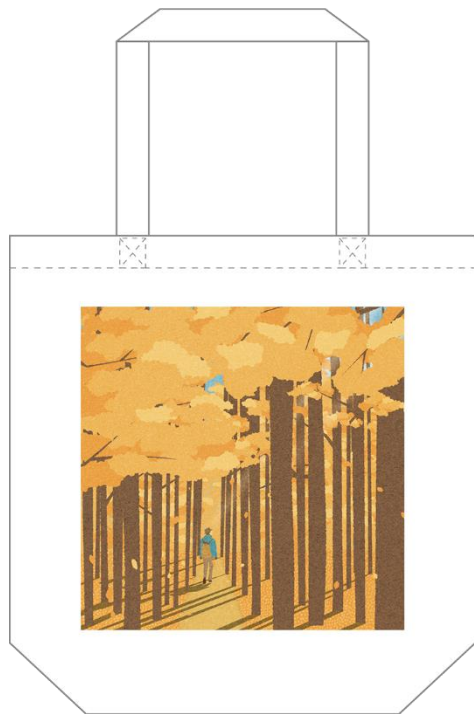


吉田 匠

『オン・ザ・ロック』



入選

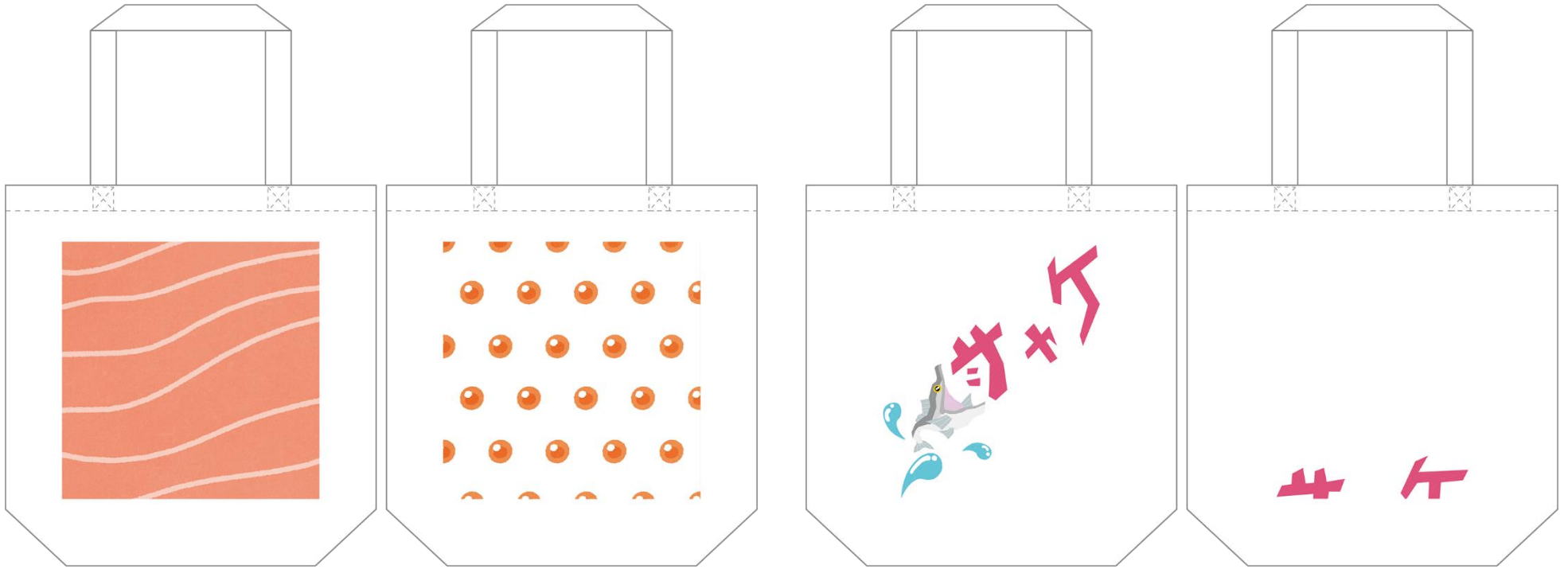


太田 弥月
『北海道の景色』

稲吉 陽郷
『来て！見て！かわいい！北海道遺産！
あなたはいくつわかるかな？』



入選



太田 弥月
『模様と見せかけて鮭』

熊懐 大介
『跳ねる鮭、潜む鮭』